

# 品目：にんじん

環境こだわり農産物の基準(5割以下の基準)

化学合成農薬(延べ使用成分数)

化学肥料(窒素成分量)

4成分以下

12kg/10a以内

## 技術体系例 にんじん

生育ステージ 防除時期	作付前		播種		生育期間中										
	作付体系	6~7月	播種時	発芽期	全般					生育初期		生育中期		生育後期	
防除方法 ・ 使用資材 ・ 薬剤名等	ほ場 ロー テー ション	太陽熱 消毒	播種量 の増量	殺虫 剤	捕殺	病害株 の引き 抜き	フェロ モン トラ ップ	黄色 灯	不織 布・ 防虫 網被 覆	殺虫 剤	B T 剤	B T 剤	(臨時) 殺虫 剤	B T 剤	(臨時) 殺虫 剤
立枯性病害	★	★	★			★									
黒葉枯れ病	★	★	★												
うどんこ病	★	★				★									
ハスモンヨトウ					★		★	★	★	●	★	★			★
コガネムシ類			★		★				★						
キアゲハ			★			★			★				●		●
アブラムシ類									★	●			●		●
センチュウ類	★	★							★						
ネキリムシ類				●	★				★						
(例) 使用農薬					ネキリ エース K		フェロ デイン S L			エル サン 乳剤	ゼン ター リ顆 粒水 和剤	ゼン ター リ顆 粒水 和剤	(マ ラソ ン乳 剤)	ゼン ター リ顆 粒水 和剤	(マ ラソ ン乳 剤)
化学合成農薬成分数					1					1			(1)		(1)

注) ●: 薬剤防除対象病害虫、★: 天然資材または耕種的手法

農薬の登録は随時変更があるので、農薬の使用にあたっては、必ず農薬ラベルを確認し適正に使用する。

\* 印のものは、登録の対象害虫等が限られているので登録を確認する。

ほ場周辺は除草剤を使用せず、草刈機による管理またはグランドカバープランツを植栽する。

## 病気 **うどんこ病**

### 発生しやすい時期

- 春まき：6月頃～7月頃
- 秋まき：10月頃～11月頃

### 原因（発生要因）

- ・ 雑草にいるカビにより発生します。
- ・ 雨が少ない年に多く発生します。



うどんこ病

### 対策（減農薬技術）

- ・ ほ場の周辺の雑草をこまめに刈ります。
- ・ 肥料をやりすぎないようにします。
- ・ 発病した株は早めに抜きます。

## 害虫 **キアゲハ**

### 発生しやすい時期

5月頃～10月頃

### 原因（発生要因）

- ・ 成虫が飛んできて、卵を産みつけます。
- ・ 卵がかえって幼虫になると葉を食べ始めます。



キアゲハの幼虫

### 対策（減農薬技術）

- ・ 防虫ネットなどで産卵できないようにします。
- ・ ほ場をよく見回って、数が少ないうちは手で幼虫を取ります。
- ・ 虫が大きくなると農薬が効きにくいので、ほ場をよく観察して虫が増えるようなら早めに農薬を散布します。

## 害虫 **アブラムシ**



アブラムシ



羽の生えたアブラムシ  
(飛んできた)

### 発生しやすい時期

5月頃～6月頃、9月頃～10月頃

### 原因（発生要因）

- ・ 発生しやすい時期になると、羽の生えたアブラムシが飛んできて、幼虫を産んで増えます。
- ・ 20～25℃で多くみられます。
- ・ 雨が少ないとたくさん増えます。
- ・ 肥料をやりすぎるとたくさん出やすくなります。

### 対策（減農薬技術）

- ・ 防虫ネットなどでアブラムシが寄れないようにします。
- ・ 光るものが嫌いなので、銀色のテープなどをほ場に張ります。
- ・ 肥料をやりすぎないようにします。
- ・ 虫が増えてからの農薬の使用は、効きにくく、回数も多く使用することにつながります。ほ場をよく見回って、虫の数が少ない間に登録のある農薬を散布します。農薬は、葉の裏にもかかるように散布します。